

〈編集後記〉

『身延山大学東洋文化研究所 所報』第二十号をお届けいたします。本号は『法華経』に関する研究を行っている若手研究者に、その研究成果を公開するための機会を与えること、また『法華経』に関する海外の研究成果を国内において紹介していくこと、という望月海慧研究所長の編集方針のもと、当該分野の研究に従事している東アジア三国（日本・中国・韓国）の若手研究者の研究論文を中心にまとめました。

寺尾英智客員所員（立正大学仏教学部長）の史料紹介は、身延山大学東洋文化研究所仏像制作修復室が修理を行いました、善国寺所蔵「日蓮聖人坐像」（平成二十三年一月）、頂妙寺所蔵「日祝上人坐像」（平成二十四年一月）、妙了寺所蔵「七面大明神倚像」（平成二十六年七月）の銘文について考察したものでございます。

桑名法晃先生（山梨学院大学非常勤講師）の論文は、望月海慧・金炳坤編『法華経研究叢書Ⅱ 婆娑數槃豆菩薩造法華論』（身延山大学東洋文化研究所、二〇一六）に収録されている論文を転載したもので、『国訳大藏経』に収録されている清水梁山訳「国訳妙法蓮華経優婆提舍」の底本を解明したものでございます。

金炳坤副主任の史料紹介は、身延山大学東洋文化研究所の、これまでの二十一年にわたる歴史を国際的な活動を中心に紹介するとともに、『身延山大学東洋文化研究所 所報』が第二十号を迎えるにあたり、創刊号より第十九号までの総目録を作成し、研究成果の活用を促しているものでございます。

白景皓氏（広島大学大学院博士課程前期）の論文は、片山由美（妙晏）研究員（日本学術振興会特別研究員）にご推薦いただきました。指導教授である小川英世先生（広島大学大学院教授）に査読をしていただきました。とりわけ『法華経』の「変成男子」を論ずるにあたり、梵藏漢並びに中日の法華章疏を網羅しており、今後の研究に期待が持て

ます。

朴姚娟先生（東国大学校仏教文化研究院HK研究教授）の論文は、ご著書『新羅 法華思想史 研究』（慧眼、二〇一三）の一部に加筆・修正を施したもので、日本ではなかなか知り得ない韓国での『法華経』に関する研究成果がうかがえる論考でございます。

なお、朴先生には「身延山大学東洋文化研究所と東国大学校仏教文化研究院との学術交流に関する協定書」第二条第三項に基づき、平成二十八年度の例会においてご講演いただく予定でございます。

金炳坤（副主任・身延山大学准教授）